

ゆくのに應じて、一般勤勞大衆の購買力がフェ、商品が消化されてゆくことが出来るかと言へば、ソナ事は決つてあり得ないことである。それでは生産と消費との關係はどうなつて行くか、

- 一、高い小作米を地主にシホリ取られ高い品物と税金の重荷を背負つてゐる三千萬の農民大衆は品物を買ふ力が狭められてゐる。
- 一、勞働者は不景氣のままの安い賃銀にオサエつけられ生活は切り下げられてゐるので購買力がない。
- 一、九億三千萬圓の莫大な軍事豫算が今後コレ以上急激に増加するやうなことはないであらう。
- 一、世界の資本主義各國は日本の商品を喰ひとめるために、關稅の引上から、日本品輸入數量の制限、禁止

手段をとつてゐるため輸出は今後減つてゆくであらう

以上の點から考へるとグングン製造されて行く商品は買手が減つてくるために、過剩生産による恐慌に再び強くブチアタルことになるのは當然である。この時資本家共は勞働者が餓死するまで賃銀を切り下げることに努め生産費を^{安く}して、外國商品との競争に勝利を待ようとするであらうし、東^洋に、南^洋のサバヤ口を國外の新市場に求むるために武力(戦争)に訴へることになる。そして^{コノ場合犧牲とされるものは勞働者農民に外ならぬ、}マ^{カニ}於て資本家や軍部の云ふ非常時の意氣がハッキリは^{かるし、}日本資本主義が永久的繁榮の道を前進してゐると云ふ理論は成り立たないのである。